

1、はじめに

田切断層は、伊那谷活断層帯の中の最大の断層で伊那市南部から上伊那郡中川村までの20 kmに渡ってのびています。この断層は、断層崖と呼ばれる断層活動によってできた崖が多く見られます。ここではこの断層で見られる断層崖を5つの地区に分けて紹介をしていきます。

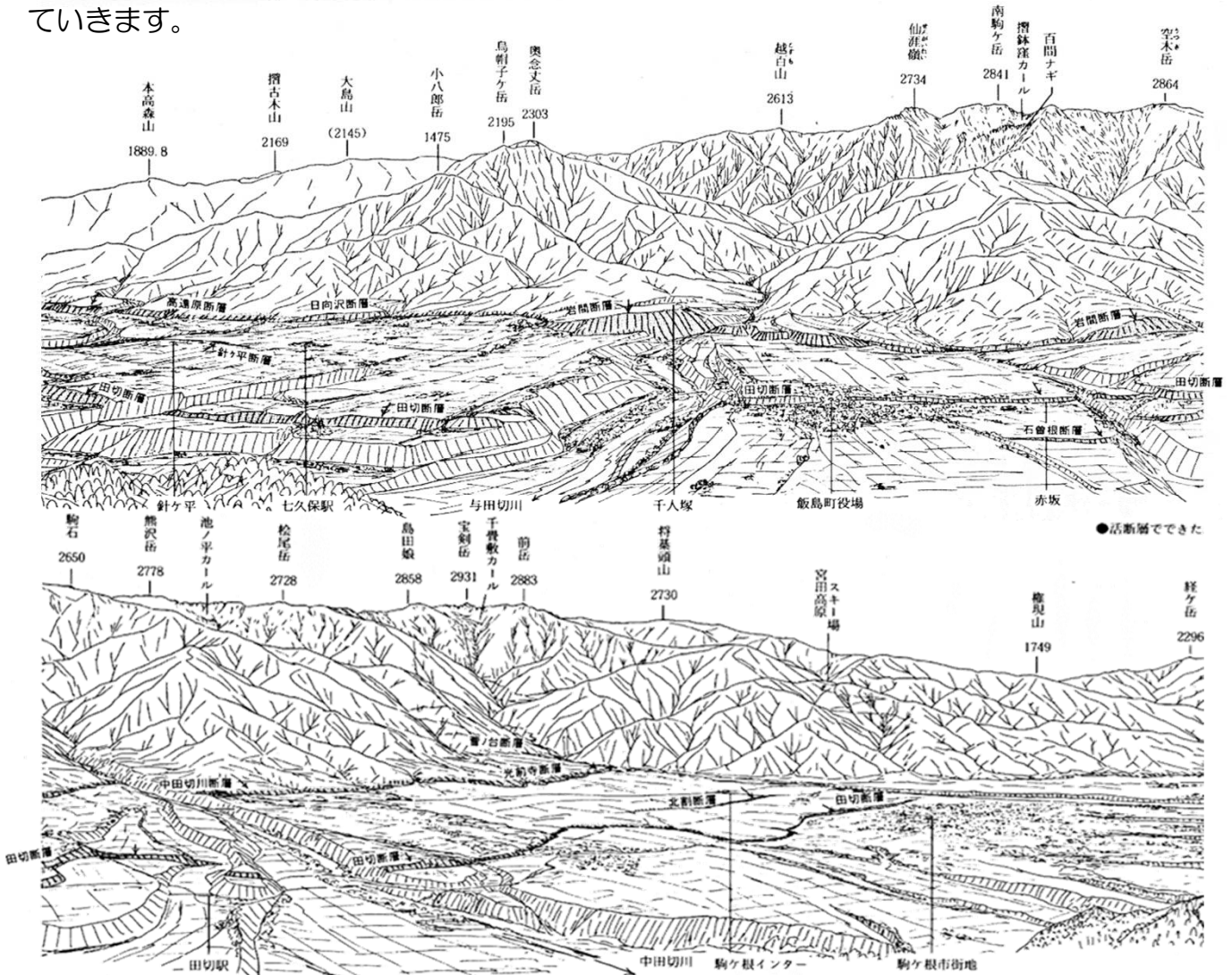


図1 陣馬形山から見る上伊那地域の断層崖
飯田市美術博物館調査報告書3 伊那谷の造地形史 飯田市美術博物館(原図 松島信幸)

2、田切断層の南端部～中川地区(本郷・横前・針ヶ平)～

写真1の西岸寺以外にも、針ヶ平(15m)・横前刈矢原(22m)・本郷駅前(23m)などの場所で断層崖を見ることができます。 ※()の中は断層の高さを表しています。



写真1 西岸寺裏側の断層崖 (パノラマ写真のためゆがみがあります)

3、田切断層の模式地～飯島地区～

与田切川近くの赤坂台から陳馬台へ続く場所では、高さ40mの崖は田切断層でも最大の断層崖です。

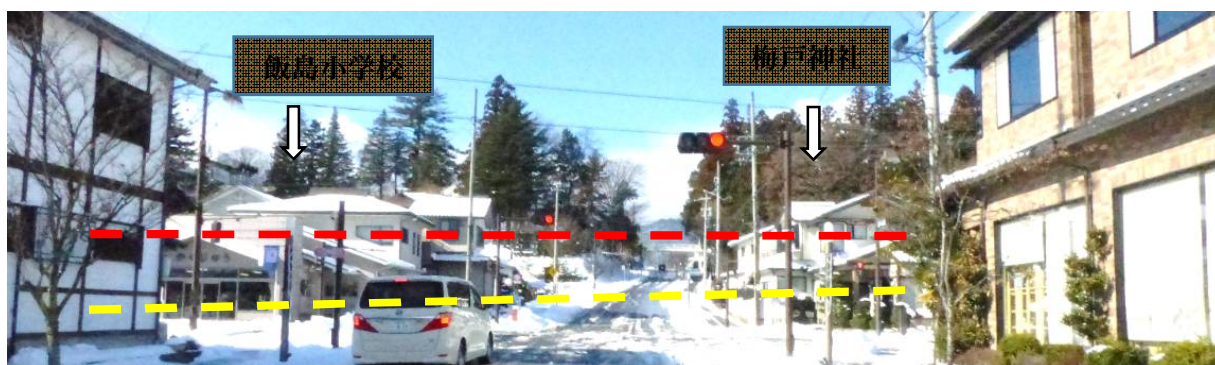


写真2 飯島小学校と梅戸神社にまたがる断層崖 梅戸神社の石垣は、田切断層の段差を利用している。

4、十二天の森で観察できる露頭～駒ヶ根地区①～

十二天の森の西側には『十二天露頭』として田切断層によって作られた低断層崖が観察できるように整備されている。敷地内にあるたて看板には、十二天の森周辺の地質や、低断層崖のできかたなどが紹介されています。

写真3 十二天露頭



5、長野家看護大周辺で見られる断層崖～駒ヶ根地区②～

駒ヶ根地区での6kmほどの断層崖がほぼ南北に一直線に続いています。長野県看護大学の周辺では、市街地へと続く高さ2～6mほどの断層崖を見ることができます。



写真4 駒ヶ根インターアクセス



写真5 長野県看護大前

6、田切断層の北端～西春近地区～

田切断層の北端に当たり、宮田中学校裏から西春近南小を西春近下小出へと続いていく。

なお、田切断層は西春近から北への延長については明確になっていません。



写真6 西春近小学校北側

【参考文献】

松島信幸, 1995, 飯田市美術博物館調査報告書3 伊那谷の造地形史, 飯田市美術博物館, 65-72.

1、はじめに

今から44万年前、上伊那の南部を流れる小渋川によって南アルプスから大量の礫が運び込まれ、中川村の柳沢地区、大草地区、松川町の部奈地区を覆う巨大な古期扇状地を作りました。中川村柳沢地区の平坦部は、この扇状地の堆積面ですが、これは伊那谷で見られる最古の堆積面になります。

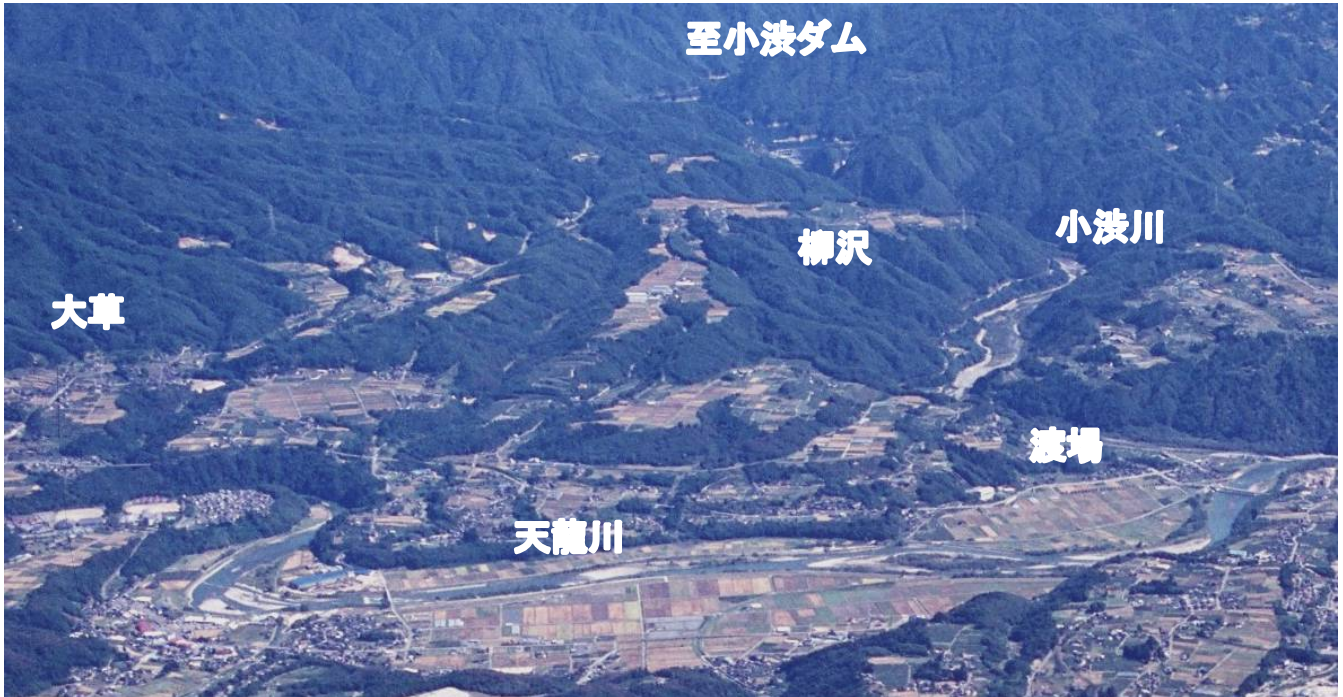


写真1 陣馬形山から見る上伊那地域の断層崖



図1 小渋川周辺の段丘地形（原図 松島信幸）（伊那谷自然友の会会報 1997年10月1日 より）

2、小渋川の溪谷に作られたダム

50



巨大な古期扇状地が形づくられた後、礫の供給が少なくなりました。その後の河川の浸食と地面の隆起より、土地が深く削りとられ、今の小渋ダムなどに見られるような溪谷が作られました。

写真2 小渋ダム展望公園より撮影

3、古期扇状地面上にある柳沢地区

区



中川村柳沢は小渋川の下流部にあたる地域で、古扇状地面の上部に位置する地区です。この地区の平坦部に残る平地は、伊那谷で見られる最古の堆積面によって作られています。地面が天龍川に下る方向にやや傾斜しています。

写真3 柳沢地区斜面の果樹園より撮影

4、古期扇状地の北部にあたる大草地区



中川村役場や中川東小学校などがあり、中川村の中心となる地域です。

柳沢地区と同様に、地面が天龍川に下る方向に傾斜をしています。この傾斜は扇状地の形成による傾きに加え、土地の傾動隆起によって作られました。

写真4 鉾区写真と一緒にいただいたデータです

【参考文献】

田中邦雄・寺平宏（1983），信州大学環境科学論集第5号．上伊那南部の段丘地形について，50-52
伊那谷自然友の会（1997），伊那谷の自然，第73号，8.9